

仙台市長表敬訪問

平成22年 5月7日(金)



今年も仙台市と国際姉妹都市等を提携している8都市より選手団が来山



奥山仙台市長が選手団に歓迎の挨拶



各都市の選手団より、奥山仙台市長へ記念品が贈られた



奥山仙台市長と記念撮影し、レースでの健闘を誓い合った

特別招待選手記者会見

平成22年 5月8日(土)



女子特別招待選手の藤永選手は「積極的な走りをしたい」とレースへの抱負を語った



メクボ・ジョブ・モグス選手(アイデム)、樋口政幸(長野身障陸協)、藤永佳子(貢生堂)の3名は、レースでの健闘を誓いガッツポーズで会見を締めくくった

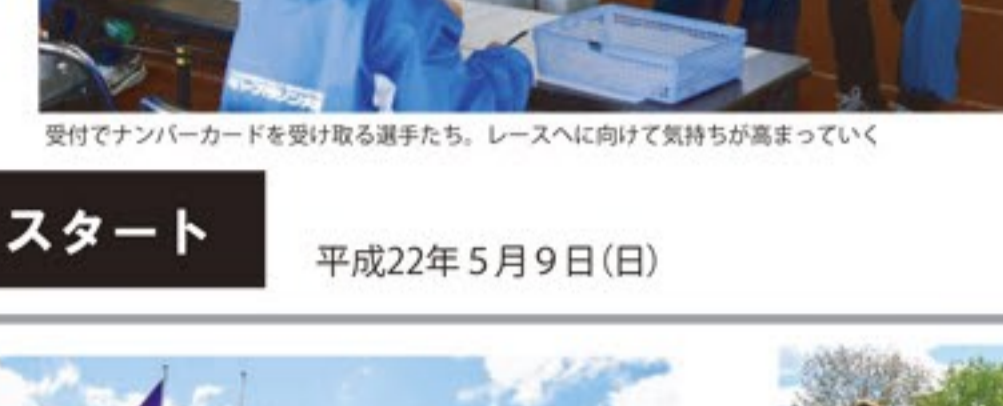


テレビ解説の増田明美さんも取材に訪れた

THE20th SENDAI INTERNATIONAL HALF MARATHON

選手受付・公式練習

平成22年 5月8日(土)



受付でナンバーカードを受け取る選手たち。レースへに向けて気持ちが高まっていく



公式練習で、レースに向けての調整は万全!

スタート

平成22年 5月9日(日)



スタート時の気温は20℃。選手にとっては優しい条件となった



10時05分に、大会最多の224名がスタート。坂井田選手(ダイハツ)が好スタート集団を牽引



10時10分スタート。男子も大会最多となる897名が一斉にスタート



スターターを務めたのは、奥山仙台市長



9時57分。桜吹雪の中を38名の選手がスタート

THE20th SENDAI INTERNATIONAL HALF MARATHON

レース

平成22年 5月9日(日)



桜吹雪の中を力走する選手たち



車いすは、序盤から4選手によるトップ争い



男子は、序盤からマサン選手(スズキ浜松A.C)、モグス選手(アイデム)、ジュイ選手(日立電線)の3人選手が集団を牽引し、ハイペースでレースが展開された



女子は、スローペースの中、終始10人前後の集団でレースが展開。誰が集団から抜け出すか、終盤まで手に汗をにぎる展開に

THE20th SENDAI INTERNATIONAL HALF MARATHON

フィニッシュ

平成22年 5月9日(日)



THE20th SENDAI INTERNATIONAL HALF MARATHON

表彰式・フェアウェルパーティ

平成22年 5月9日(日)



(左から)2位モグス選手、優勝マサン選手、3位ジュイ選手



(左から)2位宮内選手、優勝樋口選手、3位野田選手



(左から)2位山本選手、優勝樋口選手、3位花岡選手



3位までの選手にはメダルが贈呈された



お社の都賀舞太鼓が式典に華を添えた



奥山仙台市長より、選手へのあいさつがあった



パーティは選手間交流の場として賑わった



20回連続出場選手2名に特別表彰



仙台市民の優秀選手が10月の久米島マラソンへの招待された



会場に掲示された記録を確認する選手たち

THE20th SENDAI INTERNATIONAL HALF MARATHON

記念イベント/定禅寺通ファンラン

平成22年 5月9日(日)



イベントに先駆けて、ゲストランナーの高橋千恵美さん(ミズノアスレティック)による準備体操が行われた



スターターは、伊藤仙台市副市長



12時30分304名の参加者が、西公園通をスタート



車いすでの参加者も定禅寺通を満喫



思い思いのコスチュームでイベント楽しむ



第20回を記念して開催された「定禅寺通ファンラン」。参加者は、新緑のケヤキ並木に包まれた約800mのコースを、笑顔でジョギングした

THE20th SENDAI INTERNATIONAL HALF MARATHON